

令和 8 年 度
事 業 計 画

学校法人 愛知医科大学

令和8年度事業計画

令和8年3月23日

I はじめに

令和の時代が始まって以降、本学は開学50周年という大きな節目を越え、令和元年度から5年度までの中期計画において事業基盤の強化を推し進めてきました。続く令和6年度からは、新たな5カ年計画「イノベーション・ストラテジー2028」を始動させ、「社会から評価され選ばれる医科大学であり続ける」というビジョンのもと、教育・研究・診療の各領域において構造転換を図っております。

本中期計画の3年目、折返し地点を迎える令和8年度は、これまでの投資を確かな成果へと結びつけ、持続可能な経営体質を確固たるものにするための極めて重要な一年となります。

令和8年度予算を編成するにあたり、本学を取り巻く環境を概観すると、医療収入は昨年度に引き続き増収基調にあるものの、物価高騰や人件費上昇圧力といった外部要因にも影響され経費の増大に歯止めが掛からず収益の状況は依然として厳しい局面が続いています。こうした状況下において、令和8年度予算は、これまでの予算編成のあり方を見直し、現状の実績と施策をより直視した、実効性の高い収入総額をベースに、その枠内で優先度の高い事業から支出予算を配分することを徹底した事業計画を取りまとめることとしました。

具体的には、まず医療収入面において、本院では各診療科責任者との緊密な協議に基づき、現場の稼働実態等を精緻に反映、予算達成可能な額を計上しました。メディカルセンターや眼科クリニックMiRAIについても、過去の実績をベースに堅実な額を計上しました。これらの取り組みの結果、令和8年度の事業活動収入は約665億円を予算計上するに至りました。なお、本年6月の診療報酬改定について、国が示す変革に対応することに重点を置きつつ、現時点で把握している改定情報に基づき計上することとし、最終的には6月に補正予算で調整をすることも視野に入れていきます。

一方、支出予算においては、構造改革を見据えた経費の見直しの徹底を図りました。令和8年度は空いているポストは原則埋めないなどの人件費抑制策を実施するとともに、日常の業務運営に関わる諸経費についても、単なる数字上の節減を目的とするのではなく、慣例的に継続してきた委託業務や各業務の進め方、さらには事業計画そのものをゼロベースで見直すという方針を改めて共有いたしました。また、研究費や旅費についても、その必要性や配分のあり方を改めて確認し、適切な節減を図りました。限られた経営資源を真に必要な領域へ集中させ、組織全体の効率性を高め、生産性を改善していくための変革を段階的に進めてまいります。

本学の将来を左右する基幹事業や大規模な施設・設備整備、また組織体制の拡充を伴う主要な事業については、優先順位を付したうえで、資金収支の状況も踏まえつつ、財務面とのバランスを十分に考慮したうえで事業選定を行いました。これらの重要施策については、設定された目標指標に基づき、四半期ごとのモニタリングや常任理事会への進捗報告を徹底することで、計画の実行性と投資に対する成果を確実に担保する仕組みを構築いたします。

令和8年度は、これまでの取り組みを通じて整備したインフラを最大限に活用し、愛知医科大学が安定して成長し続けるための正念場となります。全教職員が現状の課題を共有し、イノベーション・ストラテジー2028に掲げた各戦略を着実に展開することで、地域社会から変わらぬ信頼を寄せられる大学として、次なる成長への歩みを進めていく決意です。

学是「具眼考究」

医療においては、超高齢社会や人口減少に伴い、日本の医療そのものが大きく様変わりをしていること、教育においては、グローバル化の流れを受けた医科系大学の教育が大きな転換期を迎えたこと等から、職員・学生にとって、新しい時代に即した「建学の精神」の実現・実践に向けて、心の拠り処となる「学是（基本理念）」が必要となり、全学的な議論を経て、新たに学是「具眼考究」が制定されました。

ここでその深意を述べれば、「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」，「見通す眼」，「眼力」，「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」，「看る」，「見る」，「観る」，「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態把握とともに生物学的，心理学的，経済的，社会的なすべての視点に立ち包括的，全人的に患者を把握する感性を意味します。更に卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え，それに対して正しく対処して究めることを指します。

II 予算編成方針

令和8年度予算は、次の編成方針に基づき編成作業を行いました。

I 基本方針

令和6年度決算を振り返りますと、事業活動収入は58,360百万円と前年度比6.4%の伸びを示しました。しかしながら、事業活動支出も61,196百万円と前年度比6.7%増加したため、収支差は△2,836百万円、経常収支差額も△2,873百万円と、2年連続の赤字となり、本学を取り巻く経営環境の厳しさが改めて浮き彫りとなりました。令和6年度の全国31の私立大学病院のうち20の大学病院が赤字に陥るなど、診療報酬の伸びが物価上昇によるコスト増に追いつかない構造的な課題は、本学においても例外ではなく、医療材料費や人件費、光熱費等の高騰が引き続き大きな圧力となっています。令和8年度に予定されている診療報酬改定によって収支改善が図られる可能性もありますが、現時点ではその効果は不透明であるため、さらに踏み込んだ緊縮財政とせざるを得ない状況です。

一方で、令和元年度以降に進めてきたメディカルセンターの整備、眼科クリニックMiRAIの開院、外来化学療法室の拡充、経過観察病棟（TACU）や救急・災害管理棟の建設、稼働病床の復床、新リハビリテーション施設《プロリハ》の開設など将来の事業基盤強化のための戦略的投資は一定の成果を示し、令和6年度の医療収入は前年度比4,202百万円（9.4%）の増加となりました。令和5年度から令和6年度にかけての本学の医療収入の伸び率は私立医科大学の中で第2位です。しかし、既に述べたとおり支出増が収入増を上回り、収支改善には至っておりません。そのうえ、中央棟も開院から10年以上経過するなど、施設・設備の老朽化対応に伴う財政需要も避けられない状況です。

このような環境のもと、令和8年度予算編成においては、医療の安全性と教育の質を堅持しながらも、「収益性の向上」と「経営資源の効率的活用」に努め、事業活動収支の黒字転換、繰越支払資金の着実な増加を必達目標とします。そのために、病院全体の病床を一括管理し、効率的な入退院支援と地域連携渉外を組み合わせる病床管理部を設置しました。また、これまでの国家公務員の仕組みをベースとした年功序列的の制度から本学の成長に貢献した人に報いる制度へ移行するための新人事・給与制度改革、事務部門の組織再編及び人員配置の適正化など全体最適をキーワードに経営効率化に全学的に取り組むとともに、不採算部門を含めた全事業を聖域なく、例外なく見直し、経営資源の最適化を図りながら資金を確保し、収入に見合う支出予算の編成を目指します。

教育・研究・診療のいずれにおいても、本学の使命を果たしつつ持続可能な成長を実現するために、各部局は「最少の経費で最大の効果」を徹底し、「スクラップ&ビルド」、「選択と集中」を一層強化した予算編成を行うことを基本方針とします。

II 重点事業

令和8年度予算編成では、重点事業の目的を刷新し、収益性と必要性の両面から整理しました。各事業の収益改善効果やリスク管理、投資回収の見通しを重視し、予算会議における優先順位を明確化します。資金収支では経済変動に柔軟に対応し、繰越支払資金の積み上げ目標を10億円と設定し、事業活動収支では黒字確保を図ります。各編成単位では中長期的視点に立ち、重点事業の目的（全体最適）に沿った計画を立案し、定量的成果が見込める事業を優先します。

目的番号	重点事業の目的
1	必須・維持（安全性・法令・認可関連）
2	収益向上に直結する投資（投資効果が明確）
3	収益向上に間接的に寄与する投資（教育・研究強化など）
4	費用削減・効率化のための取り組み（IT導入、見直しなど）
5	医療収入、医療材料費、人件費（人事厚生室分）、借入金

従来から人員増要求はすべて重点事業として取り扱っています。令和8年度の予算編成では、増員要求の審議をより慎重に行い、人員配置の適正化を優先することとします。

IV 令和8年度重点事業一覧

予算編成方針で示した重点事業の目的に合致し、定量的な成果が見込めるものとして予算化した主な事業及び予算額は、以下のとおりです。

1 教育・研究に関する重点事業	予算額
(1) 教育環境の整備 ・ 看護学部の講義・演習等における教育用シミュレータ等を更新する。 ・ 老朽化したC棟講義室の音響機器を更新する。	2,010千円
(2) 特定資産を財源とする事業 ・ 外国人研究者に対する滞在費助成を実施する。 ・ 医学部若手研究者に対する教育研究奨励助成を実施する。 ・ 看護学部若手研究者に対する研究助成を実施する。	11,963千円
(3) 研究環境の整備 ・ 法医解剖に伴う検査機器（ドラフトチャンバー）を再整備する。 ・ 法医解剖に伴う検査機器（LC/MS/MSシステム）のメンテナンスを行う。	7,242千円
(4) 研究活動の活性化 ・ 私立大学研究ブランディング事業「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」を継続実施する。 ・ 東海がん専門医療人材養成プランに即して研究と臨床を通じて、専門人材の育成を行う。	11,856千円
(5) 教育充実活性化対策 ・ 教育の充実化に貢献した講座等に対してインセンティブを支給する。	3,500千円
(5) 看護学研究科博士課程設置 ・ 看護学研究科博士課程設置に伴う環境整備を行う。	6,146千円
(6) その他 ・ 医学部教育分野別評価2巡目受審をする。 ・ 入試改革に伴う「試験・合格発表システム」の改修、「Web入学システム」の構築を行う。 ・ 教員に対して多彩な研修を実施し、全教員に対してスキルアップの機会を多く提供し、継続的な教育改革を実施する。	22,665千円
2 本院の医療に関する重点事業	予算額
(1) 教員の増員 ・ 医学教育センターの体制強化を目的に、講師・助教定数を1名増員する。	14,382千円
(2) スタッフの増員 ・ 専修医の採用を予定し、中核医師の確保を図る。 ・ 新リハビリテーション施設《プロリハ》に係る医療スタッフを5名増員する。	124,651千円

<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の業務負担軽減，診療効率向上を図るため，診療看護師を1名増員する。 ・ 臨床研究支援センターに専従CRC1名を配置し、治験受託体制を強化する。兼務・外部委託依存を解消し、対応の円滑化と件数拡大を図ることで、収益および病院価値の向上につなげる。 		
<p>(3) 診療活性化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手術件数の確保，GICUにおける安定的な医療体制の維持，麻酔科当直体制の維持を目的として麻酔科医師を確保し，高度な医療を提供する。 ・ 病院長が入院外来診療報酬請求額の前年度対比を評価指標とし，各種項目を裁量評価することで，成果を挙げた診療科等に病院長インセンティブを支給し，診療の一層の活性化を図る。 ・ 現在の患者構成や医療需要に即して病棟再編を行う。 ・ 高度急性期・三次救急機能を維持しつつ総合診療を強化し，一次・二次救急に対応できる体制と人材育成を整備する。併せて受入体制拡充と診療効率向上、地域連携強化を図る。本件は，文部科学省 大学病院機能評価事業に「総合医がつなぐ大学病院と地域医療の構造転換」として申請する。 	692,560千円	
<p>(3) 診療用機器の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高精度放射線治療装置の更新を行う。※ ・ 救急救命 生体情報モニタリングシステムの更新をする。※ 	956,828千円	
<p>(4) 継続事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療看護師(NP)及び看護パート職員に対して，夜勤手当や臨時手当の支給をする。 	13,158千円	
<p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2026年アジア・アジパラ競技大会への医療従事者，コンテナ医療ユニットを派遣する。 	2,500千円	
3	メディカルセンターの医療に関する重点事業	予算額
<p>(1) 病院システム更新関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテ(クラウドチャート)更新事業(サーバOS更新)を実施する。※ 	348,632千円	
<p>(2) 診療活性化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本院とのシャトル便需要の増加が見込まれることから安定運行を維持するため，全便委託へ移行する。 	4,794千円	

4 眼科クリニックMiRAIの医療に関する重点事業	予算額
(1) スタッフの確保 ・ 診療の質向上と安定的な運営維持の観点から、既存体制維持のためクラーク（医師事務）2名を確保する。	12,140千円
(2) 広報事業 ・ 大学レベルの高度な治療を行う眼科クリニックとして紹介元医療機関の開拓および眼科をお探しの個人への訴求のための各種広告展開を図る。	5,000千円
5 法人・大学運営に関する重点事業	予算額
(1) 建物修繕 ・ 停電時において重要な医療設備に無瞬断で電源を供給する中央棟第1無停電電源装置(1系)蓄電池の更新工事を行う。※ ・ G-2,G-3非常用発電機廃止に伴う改修工事を行う。※ ・ エレベータ劣化部品取替工事を行う。 ・ 中央監視設備の更新工事を行う。 ・ 臨時外来駐車場及び外来平面駐車場機器の更新を行う。 ・ 構内電力ケーブルの更新工事を行う。	501,682千円
(2) その他 ・ 経営改革・イノベーション推進事業 ITの活用や業務見直しを通じて費用削減と効率化を図る。地域医療連携、救急体制改革、働き方改革、財政基盤改革等の各プロジェクトを推進、全学的にイノベーションを創出する。 ・ 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金	45,620千円 31,286千円 (収入)

※印の事業は、令和7年度からの予算繰越事業である。

IV 令和8年度予算額

事業活動収支予算では、収入66,512百万円（前年度比1.7%増）、支出66,275百万円（前年度比1.7%減）となり、収支差は237百万円の黒字予算となっています。

資金収支予算では、学生生徒等納付金収入4,938百万円、寄付金収入307百万円、補助金収入2,299百万円、医療収入57,259百万円などで資金収入合計は67,012百万円となっています。

一方、人件費支出25,102百万円、教育研究費支出34,883百万円、管理経費支出923百万円、施設関係支出471百万円、設備関係支出2,139百万円、借入金等返済支出1,391百万円などで資金支出合計は60,431百万円となっています。